



学校だより

横浜市立相武山小学校

7月号

令和8年6月29日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～

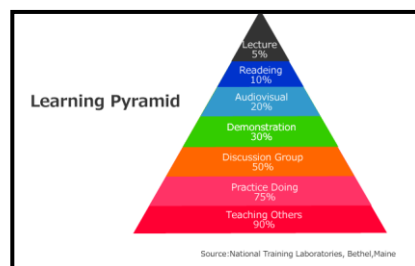
体験を通して育つ力

横浜市立相武山小学校
校長

梅雨の合間に青空がのぞき、夏の訪れを感じる季節となりました。7月といえば七夕です。七夕は、織姫と彦星の伝説に由来し、日本では短冊に願い事を書く行事として親しまれてきましたが、その起源は、学問や芸術の上達を願う行事でもあったそうです。自分の目標や願いをもち、それに向かって努力しようとする心が、昔から大切にされてきたことが分かります。子どもたちが夢や希望をもつことは、学びの出発点でもあります。自分から「できるようになりたい」「知りたい」と思う気持ちがあってこそ、学びは深まり、確かな力として身に付いていくのです。

相武山小学校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進めているところです。では、なぜ主体的に学び、対話を通して学ぶことが深い学びにつながるのでしょうか。

アメリカの教育に関する研究に、「学習は受け身で聞くだけよりも、話し合いや体験をすること、人に説明することなど、主体的に関わる学びの方が理解や定着が深まる」という「ラーニングピラミッド」という考え方があります。それによると、学習方法の違いによって知識の定着率は異なり、講義を聞くだけの学習は5%、読むことは10%、映像を見ることは20%という結果になっています。一方、「討論する」は50%、「体験する」は75%、そして「人に教える」では90%と、主体的に関わり、人と交流しながら学ぶほど、理解が深まり、学習内容が定着するとされています。



本校でも、子どもたちが自ら課題を見つけ、調べ、考えを出し合い、さらに実際に見たり体験したりする学習を大切にしています。現在、「かいこ」を育てている3年生は、成長とともに脱皮しながらまゆへと変化していく様子を、登校時に生き生きと話してくれます。この後、地域の方に「まゆの糸取り」を教えていただく予定です。こうした体験活動は、ただ「わかった」で終わるのではなく、実生活につながる学びへと高まっていきます。

まもなく夏休みを迎えます。夏休みは、学校では得がたい多様な体験を通して、子どもたちが大きく成長する貴重な機会です。自然に触れたり、家族と過ごしたり、地域の中で活動したりする中で、たくさんの体験を積み重ねてほしいと願っています。

保護者、地域の皆様には、引き続き本校の教育活動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。